

## 熊と旅人

イソップ物語より

ふたりの旅人がいっしょに道を歩いていると、とつぜんクマの姿が見えました。一人はクマに見つかる前に、大急ぎで道ばたの木にかけより、枝の上へよじ登り、かくれました。

もう一人はそれほど、すばしっこくはなかったので、逃げそこない、道の上に身を投げ出して、死んだふりをしました。クマは死んだ者の体にはさわらないと聞いていたので旅人はじっとがまんして息をとめていました。

クマが近づいてきて旅人をかぎまわしましたが（クマはそれを死体と思い込み、）そのまま、行ってしまいました。危険が去ると、木に登っていた旅人がおりてきて、相棒にクマはあんたの耳になんてささやいたの、とききました。すると相棒は答えました。

「あいつはいつたよ。災難に見まわれたとたんに、おまえを見捨てるような友達とは、もうけっして、一緒に旅をするなとさ」

災難のときこそ、友情がためされます。  
真の友は困ったときに、その友が欲していることに  
惜しげもなく手を差し伸べる人ですよ。



\*\*\*\*\*